

## インターバンクの声（2016 年 10 月 6 日）

10 月に入って早くも 3 営業日を終えた為替相場だが、週初から米経済指標の結果に敏感に反応する場面が多くなっている。多くの人たちは、今月の相場の山場は 7 日(金)の米雇用統計後に訪れると思っていたようだが、ドル円は重いとされていたドルの上値 102 円台中盤はおろか、昨夜は 103 円台の半ばも越えて来た。週初めの月曜日は、中国が国慶節のため休みに入っていたこともあり、アジア市場では大きな変化は見られなかったが、ニューヨーク市場で 9 月の米 ISM 製造業景況指数が 2 ヶ月ぶりに景況判断の節目となる 50 を回復した後からドル買いが始まった。昨夜も ISM 非製造業景況指数が前月や予想値を大きく上回る結果を示したことで、評価が分かれた ADP 雇用統計後にいったん 102 円に戻っていたところから一気に 103 円台中盤へと急上昇した。今年の投票権は持たないものの、複数の米地区連銀総裁から年内の利上げに前向きな考え方を示す発言が続いていることも多少影響しているようだ。株価もしっかり、原油価格も 50 ドル近くへ戻していることもドルを買いやすくさせているが、この相場展開で怖いのが明日の雇用統計結果が失望になることだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。